

広い空に囲まれた大地の上で

屋上に木を植える、屋上でバレーボールを楽しむ、屋上の屋台で食べる、など屋上の利用は多様性を持っている。今日の都市生活者はそんな屋上に何を一番求めているのだろうか？情報や物で溢れかえっている忙しい都市に対して、陽の光を浴び、風を感じながら、ぼーっとしたり、ごろごろと寛げるような、自分だけの居場所を望んでいると考える。

広い空に囲まれる大地をしつらえる。

それは屋上にかかる大きな大きなシートのようなものであり、地上より広々とした空に囲まれている。空とその大地を共有することで人々に安堵感や帰属感が生まれる。



自分の居場所を見つける。

まるでプレーリードッグが巣穴から顔を覗かせて表へ出てくるように人々は大地へと上がりこみ、自分だけの特別な場所を見つけ、それぞれが空を独り占めしながら思い思いの時を過ごすことができる。



やがて、人々は都市へと戻っていく。

このように都市生活にちょっとした余白をつくることで人々の感覚や気持ちに余裕が生まれ、それが活気となって都市に還元されていくことを期待する。